

研究課題名：髄液の過凝固状態を認めた中枢神経浸潤合併成人 T 細胞白血病・リンパ腫症例の症例検討

東京大学医科学研究所附属病院・血液腫瘍内科
川俣豊隆

脊髄腫瘍により脳脊髄液がうっ滞したり、クモ膜下出血や高度の髄膜炎などにより脳脊髄液の還流が阻害されたりすることにより、脳脊髄液の濃縮が起こると、蛋白濃度が上昇し、過凝固状態になる現象(Froin's sign)が知られています。しかし、これまでに成人 T 細胞白血病・リンパ腫(ATL)を含めた造血器腫瘍の中枢神経浸潤に伴う脳脊髄液の過凝固状態を呈した症例の報告はありません。

今回、私たちは、腰椎症の併発による脊柱管狭窄症を合併していたものの、ATL の中枢神経浸潤に伴う高度炎症により脳脊髄液の過凝固状態を呈した症例を経験しました。抗がん剤の脳脊髄液腔内投与により過凝固状態は速やかに改善が得られ、ATL の中枢神経浸潤がその病態の主たる要因であったと考えます。本症例の検討を行なうことで、同様の症例と遭遇した際の解析の進め方や今後の対策等に関する知見が得られると考え、標記の研究を実施することになりました。

1. 研究の対象となる方

本研究は、下記の方を対象としております。

東京大学医科学研究所附属病院・血液腫瘍内科にて入院・加療された ATL 患者さんで、中枢神経浸潤に伴う高度炎症により髄液の過凝固状態を認め、その後お亡くなりになられた 1 名の方

2. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報：臨床経過、放射線画像検査、髄液的検査等

3. 研究期間

2017 年 3 月 30 日（所長許可日）～ 2020 年 3 月 31 日

4. 研究参加の辞退について

試料・情報が本研究に用いられることについて患者さんのご遺族の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益が生じることは一切ありません。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

<問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

担当者：(氏名) (所属)：川俣豊隆 血液腫瘍内科

電話番号：03-3443-8111 (内線 75082)

住所：東京都港区白金台 4-6-1